

サステナビリティ消費者会議（CCFS）について

CCFSは、持続可能な社会のために消費者組織として取り組むだけではなく、他の消費者組織、NPO・NGOなどの市民組織、事業者との協働も行っています。具体的な活動としては、社会的責任（SR）、消費者志向経営、消費者教育などに関わっています。

■活動例

- 2014年
消費者の企業への相談のためのテンプレートである「コンプレインレター」を作成
- 2015年
企業の消費者志向事例を紹介
提言「消費者志向経営」



CCFS ホームページ <http://ccfs2014.jimdo.com/>

問合せ

ホームページお問い合わせフォームをご利用ください。

消費者市民チェックリスト「食品編」

2015年10月

公正で持続可能な社会に向けて

わたしたちができること

—消費者市民社会の消費者とは—

消費者は買い物を通して、公正で持続可能な社会に貢献することができます。消費者が何を選ぶか（買うか）によって、社会が良い方にも悪い方にも変わります。企業や政府・自治体だけではなく、消費者も子どもや孫、さらに未来の世代のために、何ができるか考えてみましょう。

消費者市民チェックリストとは

消費者市民社会における消費者になっているかどうか、自身の行動を確認するためのリストです。

あなたは消費者市民として、自分のことだけを考えて、商品やサービスの購入や消費をするのではなく、他の人、社会や環境のことも考えて行動できているでしょうか。ためてみましょう。

0-4個 社会や環境を考えた行動を考えてみよう。

5-8個 ほかに何ができているか考えてみよう。

9-10個 あなたは立派な消費者市民です。あなたにも周りの人にもあなたの実践をお伝えしてみましょう。

◆いくつできましたか？

の毒性により、このことを知っているかどうかを聞いています。

*2 絶対安全な食品はありません。どんな物質・食品も毒になります。物質や食品が安全かどうかは、摂取量や吸収量と、それぞれ違うものです。

ほかにも「エシカル（倫理的）消費」など消費者が買いたい物を通して、被災地の問題や児童労働などの社会問題の解決に貢献しようとする。価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指さず「貿易のしくみ」です。

*1 「応援消費」とは、買いたい物を通して被災地を応援する取組み、「フェアトレード（公平な貿易）」は開発途上国の原料や製品を適正な

①	「食品」「食料」は必要なものだけを買っている。	⑥	できるだけ食料を使い切る、食べられる食品を捨てないように心がけている。
②	表示（賞味期限）「原材料」「アレルギー表示」「保存方法」などをよく見て買っている。	⑦	商品等に不安や問題を感じたら、調べたり、企業や自治体の相談窓口などを活用したりしている。
③	（むやみに新鮮さを求めて新しい日付のものを購入しないなど）手前に陳列されている食品を選択している。	⑧	被災地の応援消費やフェアトレード*1など買いたい物を通して社会の役に立ちたいと考えている。
④	パランスのとれた食生活や減塩など健康な食生活を心がけている。	⑨	食品が安全かどうかは、摂取量や吸収量、そしてそれぞれの毒性によることを知っている*2。
⑤	自宅での調理や食品・食料の保存について、「安全」に注意を払っている。	⑩	“健康にいい”“健康に悪い”などの情報に振り回されず、冷静に判断して行動できる。
合計			

自分の行動を振り返り、できていることに☑していきましょう。

消費者市民チェックリスト—食品編—

解説 消費者市民社会における消費者の行動



◆いくつかの段階が考えられます。

- ①自ら情報収集し、理解し、実践する
- ②身近な周囲の人にも情報提供やサポートを行い、その実践を促す
- ③課題解決に向けて、社会（行政機関、団体、事業者等）に働き掛ける

◆「商品等の安全」で考えると・・・・・・・・

- ① 商品のラベルをよく読み、より安全・安心な商品を選択する。
- ② 説明書をよく読んで使用する。周りの人が誤った使い方をしていれば注意する。
- ③ 安全性に疑問がある場合には事業者へ質問し、トラブルが発生した場合には、事業者へ確認をし、情報提供して、原因を確認するとともに、再発防止を要請する。

（出所：2015年3月5日消費者庁「消費者教育推進会議とりまとめ」35-36頁）



解説 「持続可能な消費」を考えてみよう。

■「持続可能な消費」とは

- ・消費者が今のままの消費行動を続ければ、地球も社会も持ちこたえられなくなっています。世界中の人たちや未来の世代の人たちが豊かな環境のもとで、安心して暮らせる社会の実現に向けて、現在の私たち消費者が商品やサービスの購入・消費・廃棄などを考え、行動することが「持続可能な消費」です。
- ・どんな事例があるのでしょうか。

被災地の応援消費、フェアトレード、エシカル（倫理的）消費、環境配慮商品、節電、マイバッグの利用などが例として挙げられています。ほかにどんな事例が考えられ、自分はどんな行動ができるのでしょうか。

■「持続可能な消費」のために、どんなことが必要でしょうか。

生産と流通のあり方、消費とは廃棄のあり方、製品やサービスのライフサイクル（原料の採取、製造、販売、使用、処分の一生涯）のあり方などを見直す必要があります。



解説 「食品ロス」を考えてみよう！

（消費者庁ホームページ「食べもののムダをなくそうプロジェクト」、政府広報オンライン「もったいない！食べられるのに捨てられる『食品ロス』を減らそう」を参考にしました。）

■食品ロスとは

- ・「食品ロスとは」、まだ食べられるのに廃棄される食品のこと。
- ・日本では、年間約1,700万トン（平成22年度推計）の食品廃棄物が出されています。
＜食べられるのに廃棄される食品、いわゆる「食品ロス」＞年間約500～800万トン（平成22年度推計）。
米の年間収穫量（約813万トン。平成23年水稲の主食向け）に匹敵する数量。
世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料援助量（平成23年で年間約390万トン）を大きく上回る量）
- ・家庭における一人当たりの食品ロスは、1年間で約15kgと試算されています。
これは、ご飯1食を250gとすると、60食分。つまり、1年で60食分の食べ物にあたります。
- ・大切な資源の有効活用や環境負荷への配慮から、食品ロスを減らすことが必要です。



■「食品の自主回収」も「食品ロス」に関わります。

・安全に関わらない表示のミスなどについて「食品の自主回収」が数多く行われています。自主回収された商品は廃棄される結果、環境に負荷を与えてしまいます。本当に必要なか考えてみましょう。